

# 被災の記録 米で上映へ

## 日本語学ぶ学生60人、翻訳に協力

東日本大震災で被災したふるさとを大学生が記録したドキュメンタリー映画が評判を呼び、米国で上映されることになった。現地で多くの学生が翻訳作業に携わり、13日の上映に向けて字幕制作が進んでいる。

映画「きょうを守る」を撮ったのは山梨県立大学国際政策学部  
岩手出身の大学生撮影



菅野結花さん

4年の菅野結花さん(21)。震災後、菅野さんが高校卒業までを過ごした岩手県陸前高田市に入り、自宅があった場所や避難所、仮設住宅でカメラを回し、母や同級生、その家族らへのインタビューを重ねた。身近な人の会話を通じて被災者の思いをとらえた70分の作品だ。「きょうを守る」というタイトルに、震災で崩れた日常を一人ひとりができることをして互いに守りたい、ふるさとのいまの姿を残したいという思いを込めた。

昨年11月のやまなし映画祭で上映されると、「報道とは違った当事者の視点がある」「内面の心理が引き出されている」と話題になり、上映依頼が相次いだ。昨年秋、米国のテレビニュースでこの作品を知ったパデュー大学の畑佐一味教授(55)がより多くの人に見てもらおうと、菅野さんの快諾も得て翻訳プロジェクトを始めた。米国各地で日本語教育に携わる知人らに協力を呼びかけると、タフツ大学など12校で日本語を学ぶ60人以上の学生が手を挙げた。間もなく字幕が完成する。

菅野さんは「世界中に支えてもらって、人って温かいと改めて感じる。震災から1年が経ち少しずつ記憶が薄れていくなか、少しでも身近に感じ、考える機会につながればうれしい」と話している。

(佐藤美鈴)